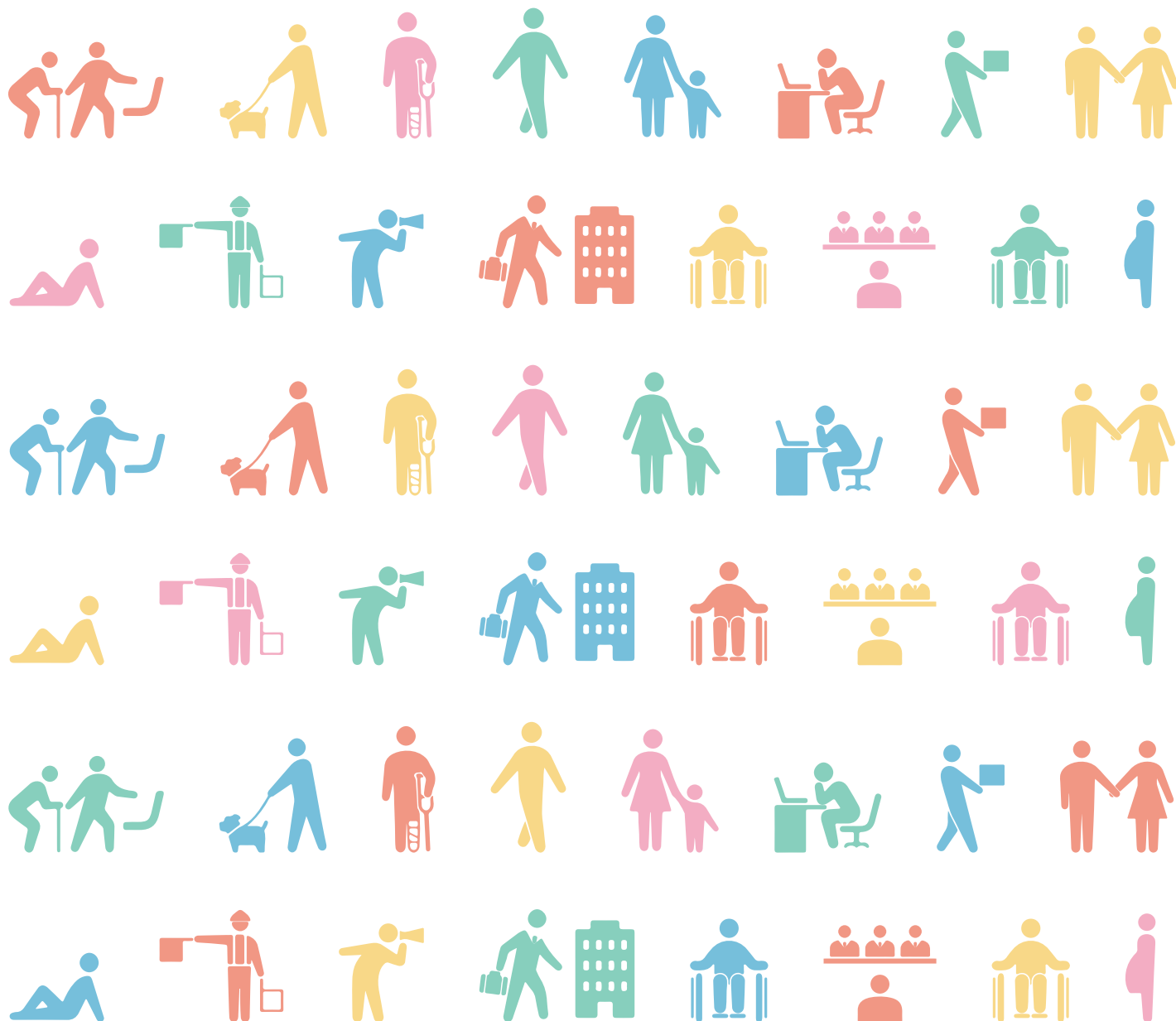


(認定) 宝塚 NPO センター
平成 27 年度事業報告書



ご挨拶

宝塚 NPO センターは、中間支援組織『市民活動の交差点』として NPO につながる会員の皆さんと市民活動の支援を通じて社会に参加しにくい人々、社会に貢献したいと願う人々を包み込む、懐の深い市民社会づくりに関わる喜びと感動を分かち合う組織でありたいと願っています。とりわけ NPO 支援を通じてボランティア活動や住民自治につながる活動、そして就労支援というもう一つの社会参加を進めてきました。人生に躓いてもやり直しのきく、失敗を恐れないで挑戦できる福祉社会の実現を求めています。



理事長 牧里 每治

宝塚 NPO センターは、きずなの家事業、消費者教育推進計画策定事務局、生活困窮者就労・自立相談支援事業、阪神北地域若年者就職面接会開催、いたみ就勝塾などを実施し、事業規模が徐々に拡大してきました。総合計画策定事務局は終了しましたが、協働のまちづくり促進委員会『協働のマニュアル』の策定を通じて、市民『協働』が少しでもより良い方向に向かうことを望んでいます。また、シニア・女性のライフキャリア促進事業では若い女性の起業に対する意欲的な姿勢に驚かされましたし、これが宝塚市民の隠れた潜在能力であると実感できました。

事業規模や予算規模が大きくなっても、中間支援組織として市民と行政をつなぐ役割を忘れてはならないと振り返ってもいます。宝塚市立勤労市民センターの指定管理事業の受託や宝塚市総合計画策定の事務局サポート事業などは、宝塚 NPO センターが市民活動を支援する非営利中間支援組織として認めていただいた結果だと喜んでいますが、『市民活動の交差点』たるべきミッションを忘れないで進んでいきたいと思っています。市民参加と公民協働の実現こそ宝塚 NPO センターが掲げ続けたいテーマでもありますが、寄付文化の醸成や社会デザインの提案、調査研究など課題は多く残されています。市民にとって頼りになる宝塚 NPO センターに脱皮するにはまだまだ時間と努力が必要です。

宝塚 NPO センターは、NPO につながる会員の皆さんと市民社会づくりに関わる喜びと感動を分かち合う組織であることを願っています。一人ひとりの気づきや思いが形になっていく共感や連帯の場づくりと、居場所と出番が宝塚 NPO センターにはある、といわれるように力をつけていくことを目指しています。そのためには宝塚 NPO センターに集ってくださる市民の皆さんの関心と参加がさらに必要です。ボランティアとして、地域住民として、地域社会につながる社会参加のチャンスとチャンネルを創り出すこと、市民がお互いに協働しあう空間、支え合う広場を創り出していくことに役職員ともども力を注いでいきたいと誓います。

目次

P1 ご挨拶

P2 目次

P3 誌面の読み方

協働の場
づくり



P4-P5

宝塚市市民活動促進支援事業



P6-P7

ひょうごアドプト事業



P8-P9

宝塚市きずなの家事業

人と組織
づくり



P10-P11

生きがいしごとサポートセンター事業



P12-P13

生きがいしごとサポートセンター
全県活性化事業

地域
づくり



P14-P15

宝塚市立勤労市民センター指定管理事業

仕事を
通じた
社会参加
づくり



P16-P17

宝塚市地域人づくり事業



P18

若年無業者の社会的背景



P19 宝塚市若者就労支援事業

P20 伊丹市若年者就労サポート事業



P21

宝塚地域若者サポートステーション事業



P22-P23

宝塚市就労準備支援事業及び
自立相談支援事業（就労支援）



P24-P25

阪神北地域合同若年者
就職面接会開催事業

参加の場
づくり



P26-P27

100 色珈琲事業

市民
ネットワーク
づくり



P28

地域ネットワーク

その他



P29

第 5 次宝塚市総合計画策定業務委託
宝塚市消費者教育推進計画策定業務委託

P30-P31
宝塚 NPO センター な・ら・で・は

P32 収支資料

P33 平成 28 年度に向けて

P34-35 平成 28 年度事業計画

P36-P37
支えてくださった皆さん

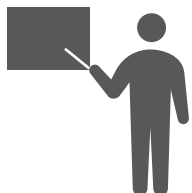
P38 ボランティア

P39 職員

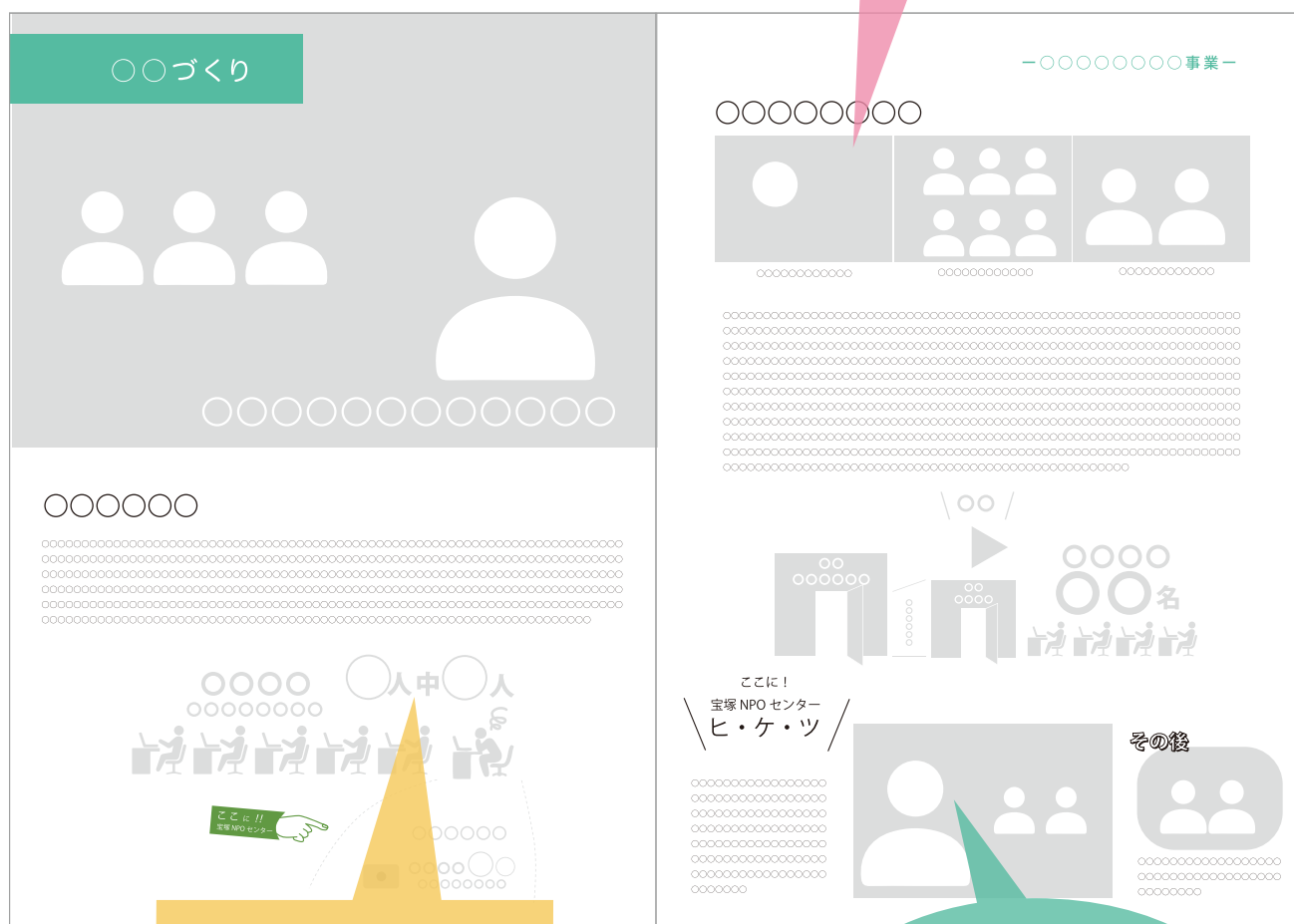
P40 役員

誌面の読み方

平成27年度事業報告書では、講座開催回数などの結果報告だけでなく、事業に取り組むために私たちが理解しておかないといけない『社会的背景』の一例をあげ、図解にしています。また、その背景や社会課題の、どの部分に注目し取り組んでいるかを示しているのが『ここに宝塚NPOセンター』のマークです。『事業実施内容』に加え、宝塚NPOセンターが取り組んでいるからこそできている『ヒケツとその後』で、私たちの強みとその結果を分かりやすくしています。



事業実施内容



社会的背景

ヒケツとその後



事業で取り組んでいる部分

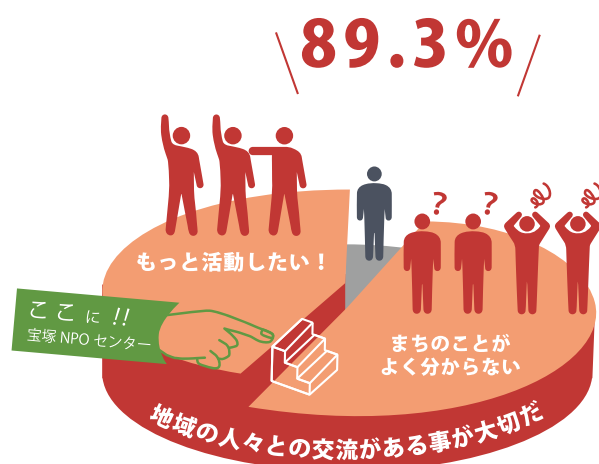
協働の場づくり

こんなにまちのことを話せたのは
初めてかもしれない

『活動している人』と 『活動してみたい人』のスキマを埋める

平成23年の内閣府による国民生活選好度調査によると、ほぼ9割の人が「自分の住んでいる地域の人々との交流があることは大切だ」と感じていて、60～70歳代では「親戚よりも大切」と回答しています。ただ、実際に交流ができている人は4割弱で、交流したくてもできないなんらかの課題があることがうかがえます。また、それらの交流が出来ている人のなかでも7割弱は「満たされていない」と回答していることから、交流の機会にも課題があることが分かります。

平成27年度の宝塚市市民活動促進支援事業では、『活動している人』と『活動してみたい人』が自然な形で出会うことから始め、市民活動への参加を通じて、宝塚で暮らす実感が得られるよう取り組みました。



【出典：内閣府 平成23年度 国民生活選好度調査】

『出会い』『関わり』にこだわる



まちの情報を伝えるためのブログ講習会



地域の魅力と課題に気付くまちあるき講座



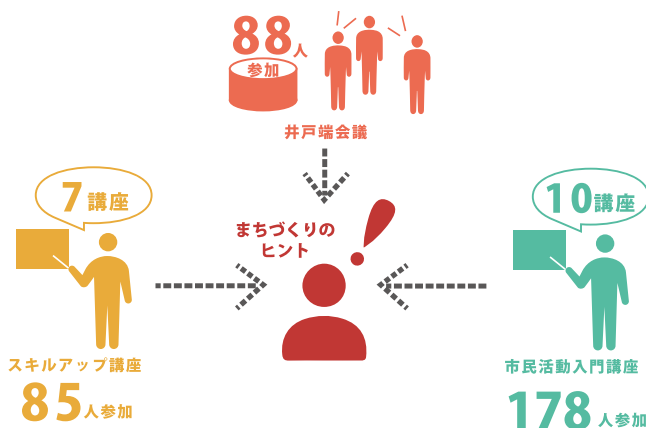
広報力ステップアップ座談会

『活動している人』との『関わり』にこだわる

すでに活動している人は活動にかける思いや気持ちが先行しがちですが、円滑な活動を継続するためには法人としての信頼性を高めながら、まずは周囲に理解してもらうことが必要です。そのために私たちがまずは一番の理解者でありたいと考えました。起業・運営に関する516件の相談や7つのスキルアップ講座には85人が参加。3回のネットワーク会議では20団体と意見交換し、活動者の課題と向き合いました。

『関わり』を活かした自然な『出会い』にこだわる

以前からの地域の方々との『関わり』を活かし、私たちがりの方法でその魅力や知識を伝えたいと、平成27年度は地域で活動する方々やNPO法人の協力を得て『ざっくばらんな市民交流会：きょう・どう？井戸端会議』『市民活動入門講座』や『地域参加促進講座』を運営しました。井戸端会議にはのべ88人、また10講座実施した市民活動入門講座には、のべ178人が参加しました。活動者同士が魅力を感じあえるように、自然な出会いにこだわり、共に良い地域づくりのために学び、それぞれの気づきを得られるよう工夫しました。



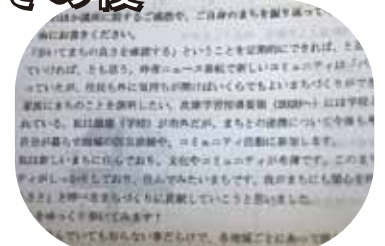
ここに！

宝塚 NPO センター
ヒ・ケ・ツ

平成27年度のキーワードは『ふるさと』。宝塚で行われる各種まちづくりを言い換えると『ふるさとづくり』と言えるのかもしれませんが。そのキーワードをくれたのは井戸端会議に訪れた卒業論文作成に悩む大学生の「生まれ育った宝塚を素直にふるさとと呼べないのはなぜ？」という発言です。ふとした出会いには、常にまちづくりのヒントが隠されています。



その後



アンケート回収率84.5%。今までの反省や前向きなコメントが多く、写真のフレーズもその中から選びました。すでに活動場所探しを始めるなどの市民活動に向けた具体的な動きが始まっています。

協働の場づくり



川・まち・里山を守る

阪神北地域での環境保全状況

アドプト活動をする人の人口割合は兵庫県では3.5%、阪神北地域では0.19%です。この数字だけでは、阪神北地域は環境保全活動に対する意識が低く感じますが、兵庫県の第13回『県民意識調査』によると「リサイクルや河川の清掃、緑化、自然保護など、環境をよりよくするための活動について、あなたはどのようにされていますか」という質問に対し、阪神北地域では「すでに参加している」と回答した人が22.6%、「参加したいと思う」と回答した人が40.3%もいて、参加の意思がある人は多いが、その機会が少ないことがうかがえます。活動したいと考えている人たちに参加をしてもらうためには、活動場所を増やすと共に、現在活動している団体を支えていくことも欠かせません。地域への愛着を育んできた思いをつなぎ、無駄にしないためにも、アドプト活動を広く広報し、地域づくりとコミュニティづくりに取り組む団体やメンバーを増やすこと、そしてすでに取り組んでいる活動を次の世代に継承していく必要があります。



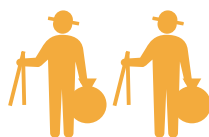
リサイクルや河川の清掃、緑化、自然保護など、
環境をよりよくするための活動について、
あなたはどのようにされていますか。



阪神北地域住民の意識

既に参加している

22.6%



参加したいと思う

40.3%



【出典：兵庫県 第13回 県民意識調査】

地域による環境美化活動



メンバー全員で植栽



アドプトをもっと良くする会議



美しく保たれている道路脇

平成27年度のアドプト事業の目標は、新しいコミュニティの形成とメンバーの高齢化の解決策を探ることから始めました。情報誌『みんなのアドプト』を平成27年度も第3、4号と発行し、団体紹介を行うことで地域の方々にこの活動を周知することができました。平成28年1月末には『アドプトをもっと良くする会議』の3回目を開催。アドプト活動をしている団体間の交流も進めることができました。平成27年度は2団体の解散がありましたが、無事に活動区域を新たな清掃美化団体に継承することができました。このことは『みんなのアドプト』の発行及び『アドプトをもっと良くする会議』を開催することで、アドプト団体のメンバーはもちろん、地域住民がこの環境を「自分たちで守り支える」という意識が芽生えてきた証です。また、阪神北地域のアドプト活動の特徴として、地域コミュニティの一部のアドプト事業に取り組んでいる団体や、環境グループの活動に取り組んでいる団体が多くあります。平成27年度のアドプト活動者数は前年の110%・1,561人、参加団体数は39団体と参加する人も団体数も増加しています。アドプト活動による地域美化活動・ネットワークづくりの取り組みが広がっています。地域を美しくするこの活動はコミュニティのつながりと地元を愛するところを育むものです。引き続き宝塚NPOセンターらしいサポートで、地域のコミュニティ作りに通じるアドプト活動を支えていきたいと思っています。

『アドプトをもっと良くする会議』



開催

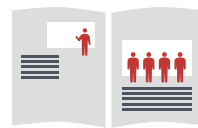
ここに！

宝塚 NPO センター
ヒ・ケ・ツ

アドプト活動に必要とする資材の調達
は、宝塚市内でリサイクル事業を行って
いるNPO法人から調達するなど、アドプ
ト活動団体とNPO法人や地縁団体など
との『つながり』をつくることを重要視し
ています。

アドプト活動団体を紹介する情報誌

『みんなのアドプト』



発行

団体紹介



活動
をよく
知らない
人



その後

昨年比 110%

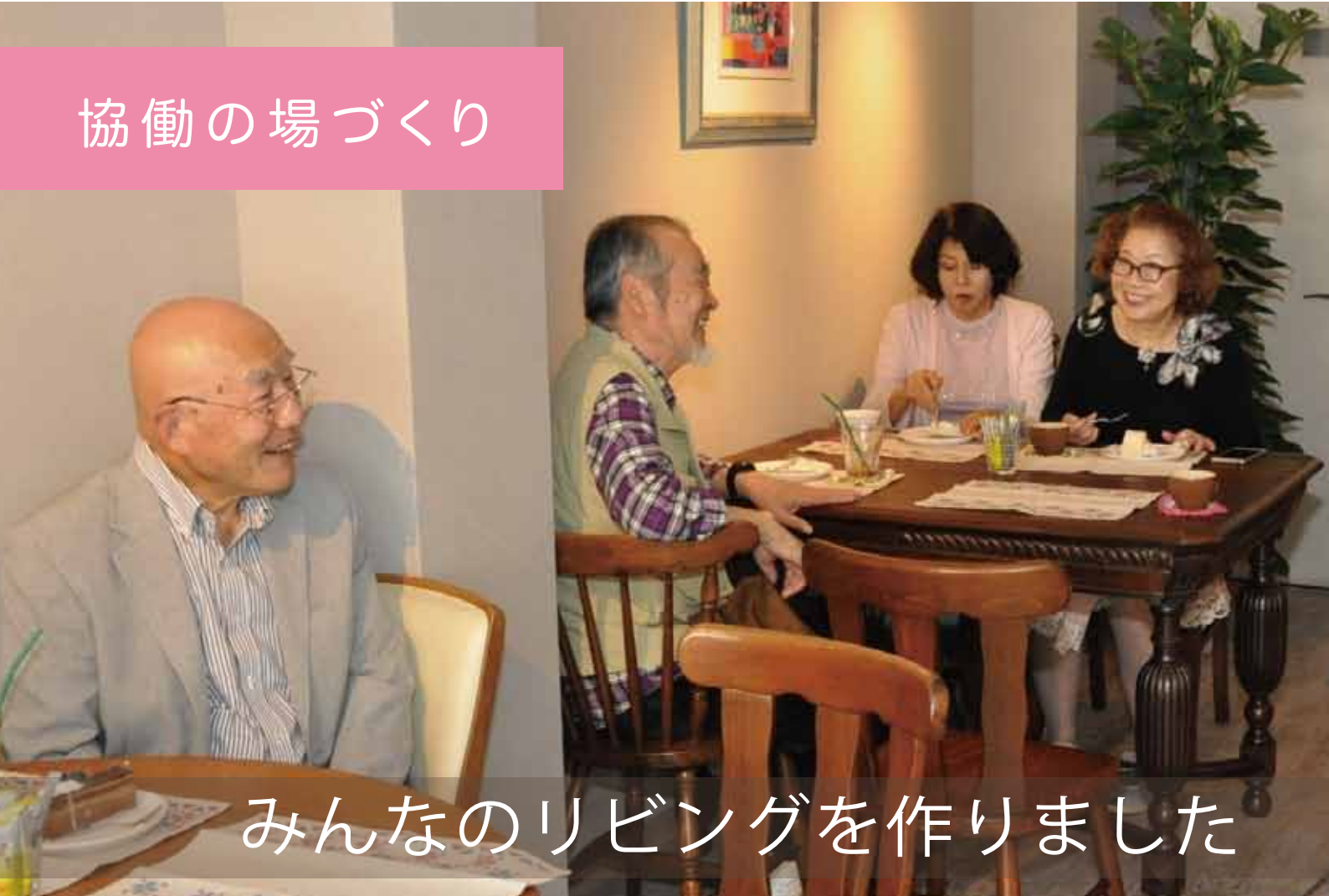
阪神北地域

活動者 **1,561人**
39 団体



事業継承 2 団体

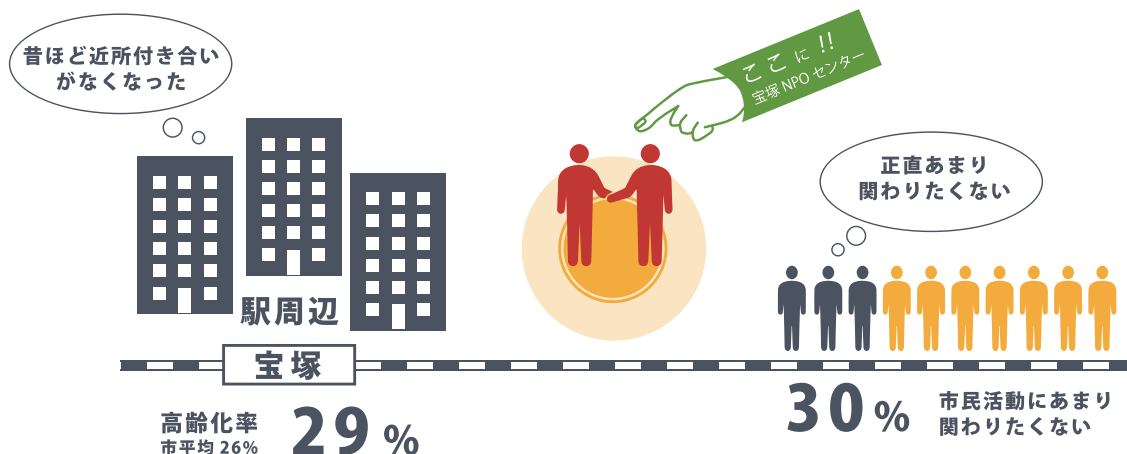
協働の場づくり



みんなのリビングを作りました

駅近の高齢化と 3 割のチカラ

「震災前の花のみちはお土産物屋が並び、一歩家を出ればすぐに誰かと話げできたのだけれど、マンションが立ち並ぶようになり、気軽に近所の人と行き来する機会が少なくなりました。寂しいね」この一言がきずなの家KaRuTaを作る動機になりました。宝塚市の高齢化率は26%ですが、震災後にマンションが増えた宝塚駅周辺の栄町では高齢化率の平均が29%。中でも高齢化の進んだ栄町2丁目は42%と高い数値になっています。この数字と宝塚市の平均世帯人員が2.3人ということを考えると、高齢化の進むこの地域には、独居あるいは夫婦のみの世帯が多いのではないのでしょうか。加えて、高齢化に伴い足腰が弱くなったため、山手のニュータウンから交通の便の良い駅周辺に引っ越してきた高齢者にとって、新しい土地で親しい近所さんを作ることは困難です。この現状をボランティア活動で解決できるとしたら…宝塚市が実施した市民アンケート（平成26年1月～2月）の結果を見ると、「市民活動に参加しようと思わない・あまり関わりたくない」という人が34%。この数字は今後、市内にまちを動かす可能性のある人が3割以上いる、この3割が動けばまちが変わると教えてくれています。



【出典：宝塚市 平成 26 年度 市民意識の調査】

キッカケをつくる



花のみち沿いに開設



関係者へのお披露目



活気あふれる宝塚まちかど大学

宝塚市きずなの家事業補助金を受け、平成27年10月にオープンした『きずなの家 KaRuTa』のコンセプトはみんなのリビングルーム。平成27年度に当センターが目標にした『地域で居心地の良い場＝サードプレイスを作る』を実現した事業となっています。コミュニティカフェとして、宝塚を訪れた観光客や近所にお住まいの方々にお茶と軽食を提供。加えて、おしゃべりのサービスを提供するのも特徴です。サービスを提供しているのは、社会参加をしたい14人のボランティアさん。地域の中に『場』があるということで、出会うことのなかった人々の交流が始まり、その交流がまちを作っていくことにつながっています。月1回、夜間に学びを通じたつながりをめざして『宝塚まちかど大学』を開校しています。この『学び』でつながった人たちがいずれ地域で動き出し、何かを変えていくという思いを込めて実施しています。いますぐ社会貢献はできないけれど、いずれは動き出したい。そんな思いを持った人が多く集まっています。

KaRuTaのドアを開ければ、誰かがいる。そんな安心感を届ける場、そして、動き出すキッカケの場としてあり続けたいと考えています。

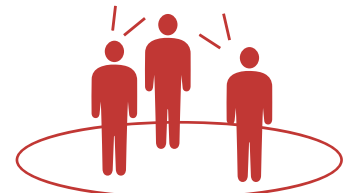


利用者
のべ **1,657** 人

【平成27年10月～平成28年3月末】



関わったボランティア
のべ **373** 人



イベントで一緒に語り合った人たち
のべ **92** 人

ここに！

宝塚 NPO センター
ヒ・ケ・ツ

何かをしたい人の“何か”を実現させます。例えば、宝塚の古い街並みの写真を多くの人に見てもらいたい。描いた絵を壁に飾り皆さんに見てもらいたい。自分たちでイベントを考えてKaRuTaで実施したい。全てを応援することで皆さんに交流の波を起こすのがヒケツです。

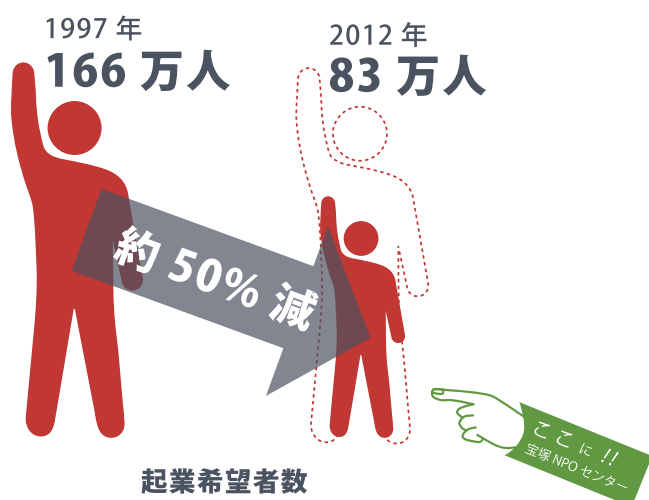




非営利活動での事業成功とは

起業希望者は 20 年で半減

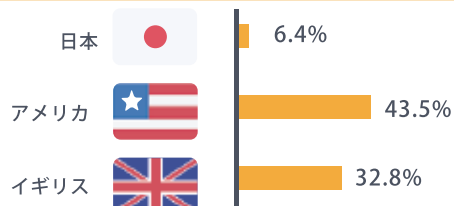
2015年版中小企業白書によると1997年と2012年を比較した時、起業希望者は166.5万人から83.9万人と半減しています。また、世界の国を対象に行っている起業家精神に関する調査(GEM調査)では「今後、6カ月以内に自国でビジネスチャンスがある」という質問に、日本では6.4%(米43.5%、英32.8%)と非常に低い数字となっており、日本の起業活動は国際的にも低水準となっています。これに対し起業促進の施策である、補助金などの支援策や優遇措置は多く講じられていますが、残念ながら起業活動が大きく活発化する傾向はまだ現れていません。このような状況ではありますが、起業者の存在は同じ業界の既存事業者も歓迎すべきことです。なぜなら起業者は新しい考え方や技術を持ち込み、その業界に刺激を与え、潤滑油の役割を果たすからです。ICT(情報通信技術)が大きく発展している中、既存の一事業者もいままある収益の確保よりも業界全体の発展が衰退かに目を向けることは普通のことといえるのではないのでしょうか。



【出典：中小企業庁 2015 年版 中小企業白書】

起業に対する考え方の国際比較

今後、6 カ月以内に自国でビジネスチャンスがある！



【出典：平成 24 年度 起業家精神に関する調査（GEM 調査）】

『あなたらしさ』を考えます



ビジネスの視点を学ぶ CB 講座



NPO 法人事務力検定は兵庫県初開催



第2の人生を考えるココカラ大学

近年、法人格の種類やその有無に関係なく、コミュニティ・ビジネスで課題を解決しながら事業を継続している団体や個人が目立ってきています。また、非営利活動にもビジネス的視点、デザインなどが重視されてきています。

しかし、起業後事業を継続できている団体や個人は、10年後には6%以下となり事業の継続は高いハードルといえます。事業を継続していくためには、他とは違ったスピードやオリジナリティなどの独自性を確立していくことが重要です。

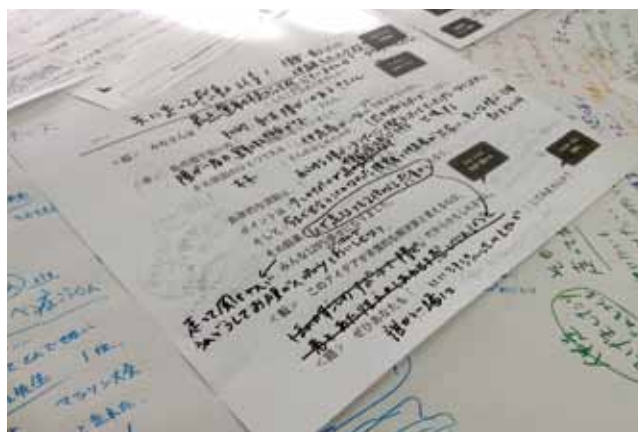
平成27年度は従来どおりの事務機能の強化サポートに加え、講座、個別相談でブランディングを意識したサポートを行ってきました。また、相談者の希望を整理し、時には希望と違った形を提案してきました。例えば、起業を希望して来所された場合でも事業計画が立てられない、運営方法にビジネス手法をとっていないなどの団体や個人は、ボランティア活動の方が良い場合もあります。生きがいごととサポートセンターの相談者には起業、就労、ボランティア、地域参加など多くの選択肢があります。個人で考えるのではなく私たちに相談することを選んでくれたからには、その人らしい将来設計を一緒に考え、その人にとって一番大切な充実した時間、仲間をつくる、好きなことに関わるなどの『生きがい』に早くつながる方法を提案していきたいと思えます。



ここに！

宝塚 NPO センター
ヒ・ケ・ツ

次のステップをどうするのか悩んで相談に来られる人に起業、就労、ボランティア、地域参加などさまざまな選択肢を用意しています。ご自身で考えた手段よりベターな道があるかもしれません。多くの事業を担っている宝塚NPOセンターではその人、その時にあわせたサポートができるので、最初の希望とは違う道を選ばれて成功される方も多くおられます。



その後

起業団体数
24 団体

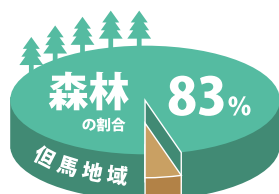
雇用創出数
446 人



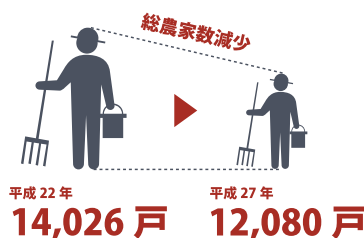
スモールビジネスをつくる

活用しきれていない地域資源

但馬地域の83%は森林。この数字は県の森林面積の約31.5%を占めていますが、間伐などの整備は行き届いておらず活用しきれていないのが現状です。その中の私有林も同様、活用しきれず持ち主の悩みの種となっています。また、農家数は減少し耕作放棄地も年々増加し続けています。しかし、県民意識調査で但馬地域は「住んでいる地域に愛着や誇りを感じる人の割合」「住んでいる地域をより良くしたり、盛り上げたりする活動に参加している人の割合」が県内1位、「地域のことに関心がある人の割合」も県内2位であり、但馬の人々は、地域への関心や愛着が強いことがうかがえます。但馬には多くの課題が生じていますが、見方を変えれば、これらは豊富な資源に恵まれ、コミュニティ・ビジネスの可能性に満ちているといえます。また、地域への愛着、誇り、関心などが高いことは、他には代えがたい人財が多いといえるのではないのでしょうか。



但馬地域における森林率



農家の減少

【出典：農林水産省 2015 年農林業センサス】



但馬地域
住民の意識

1 位 住んでいる地域に愛着や誇りを感じる人の割合

1 位 住んでいる地域をより良くしたり、
盛り上げたりする活動に参加している人の割合

【出典：兵庫県 平成 27 年度 兵庫のゆたかさ指標 県民意識調査】

但馬にはビジネスチャンスがある



一泊二日の但馬若者 24 時間研修会



リアルに触れる先進事例見学会

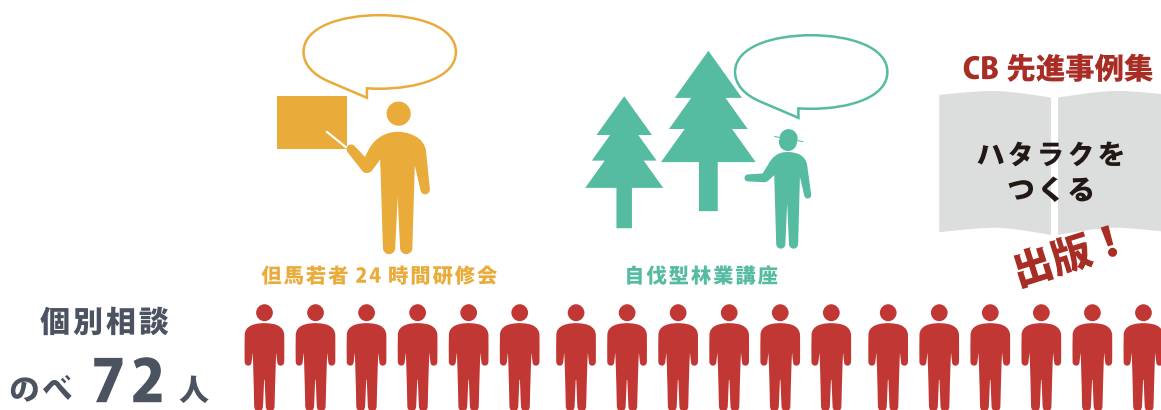


実践形式の自伐型林業講座

平成27年度は朝来市を中心に出張相談を行い、地域おこし協力隊員、行政職員、移住者などの多くの方と起業や運営について相談を重ねました。また、『自伐型林業講座』と称して大型機械を使わず、若者も挑戦しやすいとして注目を集める小規模林業の講師をお呼びし、実践形式の講座を行いました。30代の若者からシニアまで、定員を大きく越える人数が参加し、「実践形式ですぐに役に立つ、実のある講座だった」など多くの満足の声をいただきました。

その他にも一泊二日の『但馬若者24時間研修会』と称した長時間の研修会を企画し、但馬全域から様々なバックグラウンドを持つ30人以上の若者が参加しました。事例発表や、ネットワーク会議、市民団体の活動見学などを通し、情報交換や事業計画のブラッシュアップなどを行い、そこから多くのネットワークが生まれました。また、兵庫県下の6つの生きがいしごとサポートセンターの合同事業として、今後地域で起業を考える人へ向けたコミュニティ・ビジネス先進事例集『ハタラクをつくる』を事業計画のヒントになるツールとして作成しました。

いま但馬で「何かしたい」という強い気持ちを持っているのは、東京や神戸などからの移住者、またシニアから若者まで、大きく広がっています。都会からも可能性を感じ人が集まりはじめている理由は、但馬には多くの資源があり、ビジネスチャンスが多く見つけられるからです。それを見つけるだけでなく、実現するためには、私たちのような第三者が行うフォローがスタートの一步を生むのではないのでしょうか。



ここに！

宝塚 NPO センター
ヒ・ケ・ツ

当センターではこれまで多くの団体設立支援を行ってきました。そのつながりを活かし、同業種の以前から運営している団体と新しく起業する団体をつなげています。



その後

起業団体数
7 団体

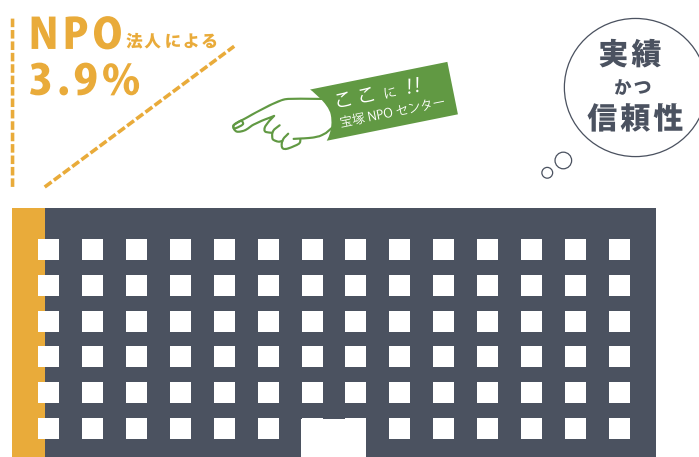


市民が公共を担う礎を作る

なにも起こさず、なにかを興す

平成24年度総務省が行った調査によると、全国で指定管理者制度を導入している公共施設は73,476施設。うちNPO法人が管理している施設はわずか3.9%に留まっています。一方、株式会社が担う施設はその4.5倍です。指定管理者制度の多くは実績や信頼性、つまり安全かつ安心して低コストで施設運営できることが条件で、実績の乏しいNPO法人は利益を公共に還元すると公言する団体でありながら、そもそも参画しにくい状況にあります。

市の施設とは本来市民の施設。これからの指定管理者に必要なことは、利用者でもある市民と協働しながら、一緒に公益を担おうとする姿勢です。ただ建物を安全に安心して低コストで使ってもらっただけでなく、訪れる利用者が何かを生み出すきっかけを作る。そのような動きのとれる施設運営が求められています。



公共施設の指定管理

【出典：総務省 平成24年度 公の施設の指定管理者制度の導入状況等に関する調査】

市民活動のキャンパスになる



貸室例『子ども書き取り教室』



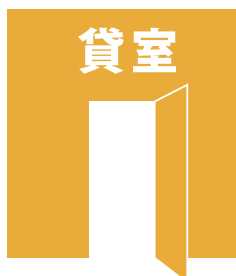
利用団体と協働した着付け無料体験講座



親子で土づくりワークショップ

利用している人が無理なく施設維持に関わり、それ自体が施設の特徴になっていく。無地のキャンパスに絵を描くような運用を心掛けました。平成27年度の貸室利用は昨年度実績を11%上回る、のべ約4万人。駐車場は前年とほぼ同数でしたが、管理方法の見直しにより、全体として4%の収入改善となりました。得られた収益を市民に還元する方法として、特に平成27年度は働く保護者と子どもとのふれあいをテーマに、施設の立地や特徴、利用団体を活かしながらの企画づくりを行いました。

代表的な講座として、末広中央公園にて廃棄される落ち葉を使って堆肥をつくる『親子で土づくりワークショップ』や、子どもサークルが和室利用時に破いてしまった障子を、宝塚市優秀技能受賞者に教わりながら張り替える『障子張り替えワークショップ』、利用団体の子ども英会話を親子で体験できる講座など、11講座にのべ219人が参加。パソコン教室を含めた自主事業全体では78講座を開催し、のべ507人が参加しました。



＼4万人利用／



＼4%収入改善／



ここに！

宝塚 NPO センター
ヒ・ケ・ツ

勤労市民センターを愛する華道師範のボランティアさんが植栽を担当し、センター長を始めとした職員により施設を維持できたことで、古いにも関わらず、利用者のおよそ8割から「綺麗な施設」という評価を得ています。また職員の明るい挨拶が利用者との良好な関係性を築けるヒケツです。



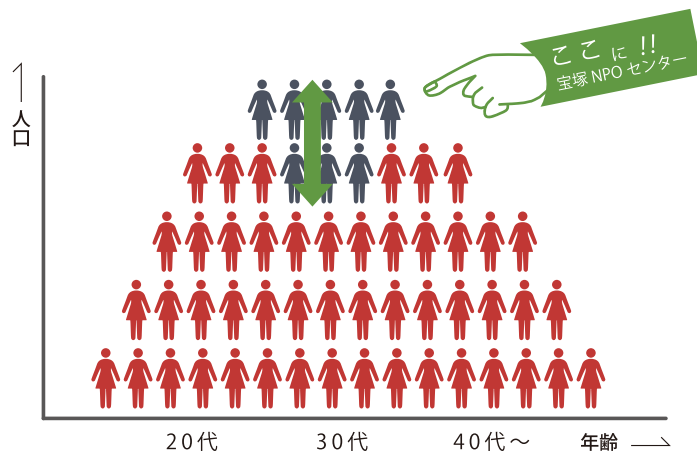
仕事を通じた社会参加づくり



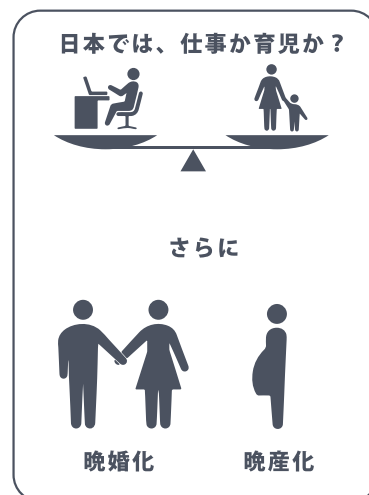
『働くチカラ』再発見

女性の就業率上昇 - M字カーブの変化 -

女性（15～64歳）の就業率は、2015年平均で64.6%で前年度比1.0ポイントの上昇となり、比較可能な1968年以降最高となりました。2010年に60%を超えた後、過去最高を更新し続けており、年齢階級別に10年前と比べると、30～34歳で最も上昇しています。また、結婚、出産、育児期にあたる20～30歳代で一度就業者が減り、育児が落ち着いた時期に再び上昇するという、いわゆる『M字カーブ』ですが、近年このカーブの形に変化が出てきています。25～34歳の女性に占める働く人の割合は4人に3人に達し、35～44歳でも過去最高となったことで、カーブの底が緩やかになってきています。このことは女性の労働力人口比率が改善したと言える側面もありますが、近年進みつつある晩婚化・晩産化に伴う影響なども指摘されています。



【出典：内閣府 平成25年版 男女共同参画白書】



女性パワー全開！



起業セミナーでビジネスモデルを学ぶ

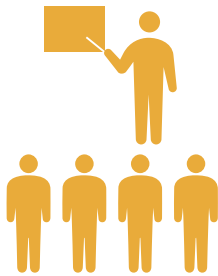


女性のための就労支援セミナー



シニアの働き方セミナー

平成26年度に引き続き『女性のための就労支援セミナー』『シニアの働き方セミナー』を各2回、そして、シニアと女性の『起業塾』をそれぞれ1回開催しました。平成27年度は、女性セミナーは当然ですが、シニアのセミナーも女性の受講者が多く、女性のパワーが目立った一年でした。なかでも『女性起業塾』は大いに盛り上がりました。講師陣も豊富で、事業アイデアの発見から、マーケティング、ビジネスプランの作成、助成金・融資の情報提供や先輩起業家の話など、4日間の講座では足りず、同窓会や補講も実施し、我々スタッフも一緒に勉強しました。起業そのものはさほど難しいことはありませんが、そこで結果が残せるかどうか、それで暮らしていけるかどうかが課題です。『就労支援セミナー』では、パソコン講座を2日間取り入れました。今の時代、どんな職種でもパソコンスキルは必須です。今まで自己流でしてきた人たちも、ワードやエクセルの機能を知ると、どんどんと面白くなってきます。これも受講者の強い希望により一日補講を実施しました。この事業は、講座を受けて就職や起業など社会に参加してもらうことが目的です。私たちのサポートは、年度を越えてもまだまだ続いていきます。



女性のための就労支援セミナー
シニアの働き方セミナー



起業塾



パソコン講座

ここに！

宝塚 NPO センター
ヒ・ケ・ツ

このような連続講座のいい面は、講師のお話を聞くこと以外に、受講者同士の新しい出会いも魅力の一つです。起業にしても就労にしても、情報交換・異業種交流・人脈づくりなどの新たな『つながり』が生まれます。こういう場では、何故か本音で語ってしまうものです。私たちスタッフも仲間としてつながっています。



その後

『つながり』づくりは、女性が得意なようです。平成27年度のセミナーを受講し、就職または起業した人は、平成28年3月末時点で合計24人ですが、そのうち21人は女性でした。

仕事を通じた社会参加づくり



働きたいを応援！

若年無業者の数、76 万人

内閣府の調査によると、15～39歳の若年無業者の割合は2.2%。この数字を多いと感じるか少ないと感じるかは、人それぞれだと思います。上記2.2%＝76万人の悩みや課題は76万通りの理由や原因があり、特効薬のような解決方法はなく、若年無業者の課題の根深さはここにあります。また、いわゆる働いているべき年代と言われる若者が働いていないという状態は、なかなか社会には受け入れられていない現状があります。そのため、講座や職場体験実習などでは、自治会や近隣の事業者など地域の多くの方に協力をいただくことで、この社会的な課題を身近に感じてもらえるように工夫をしています。しかし、地域で支える体制を作れるまでには至っていません。そのような中、地域イベントへの協力を求められるたびに、少しずつ理解は広がっていることを実感しています。

ここに!!
宝塚 NPO センター

- 1 職場体験つき集中プログラム
(宝塚市)
- 2 合同就職面接会つき集中プログラム
(伊丹市)
- 3 継続的就労支援事業



若年無業者
(15～39 歳)

76 万人

就職



学校



たくさんの力で若者を応援



清掃体験で汗を流す若者たち



社会人の基本を学ぶマナー講座



ボランティアさんと協力して調理に挑戦

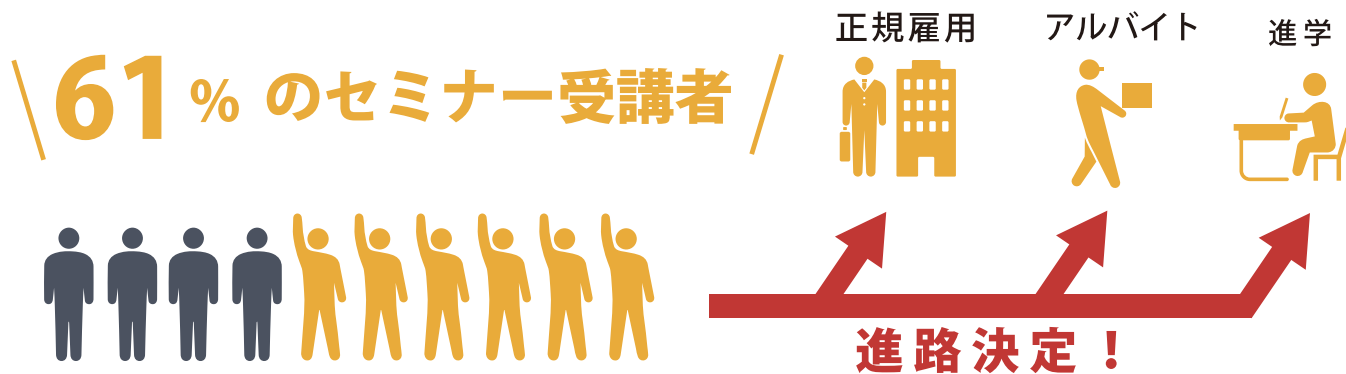
本事業は宝塚NPOセンターが平成20年に宝塚市から受託し、7年目となります。

毎年7月にオリエンテーションで幕を開け、①自己分析、②仕事理解、③就職活動、という3つのステップを毎週1回、3か月間にわたりセミナーを実施。その後、生活訓練として5日間の連続日程に取り組みます。平成27年度のセミナー回数は全19回、のべ参加者数は229人でした。平成27年度は、新たな取り組みとして、より働くイメージがつきやすいよう、清掃体験や事務作業などを取り入れ、座学だけではなく、実践を通して学んでもらえるような内容構成としました。また、職業人の話やビジネスマナーなどでは外部講師に来ていただき、調理実習では料理上手なボランティアさんにお手伝いをしていただくなど、たくさんの方々の力を借りることで、受講者は良い刺激を受け、充実したものとなりました。

すべてのセミナーが終了した後は、受講者の希望に合わせて職場体験実習や応募活動へ。

スタートから約半年後の平成28年1月には修了式を行いました。今後の目標をカードに書き記し、気持ちを新たに、社会への一歩を踏み出しました。すでに進路が決まった人も、ここから応募活動に向かう人も、まだまだ道の途中です。

私たちは引き続き、一人ひとりに寄り添った、サポートをしていきたいと思っています。



ここに！

宝塚 NPO センター
ヒ・ケ・ツ

地域のネットワークで若者をサポート！
毎年8月に行われる地域の夏祭り。宝塚NPOセンターが事務局を担い、夜店も出店。運営のお手伝いを本事業の受講者にもしてもらい、その中で、さまざまな仕事を体験することができました。こうした地域のネットワークも活かして彼らを応援しています。



その後

受講者の半数以上が進路決定！
正規雇用、アルバイト、進学など、一人ひとりが、さまざまな形で新たなスタートを踏み出しています。

内定を勝ち取る！



電話対応を学ぶマナー講座

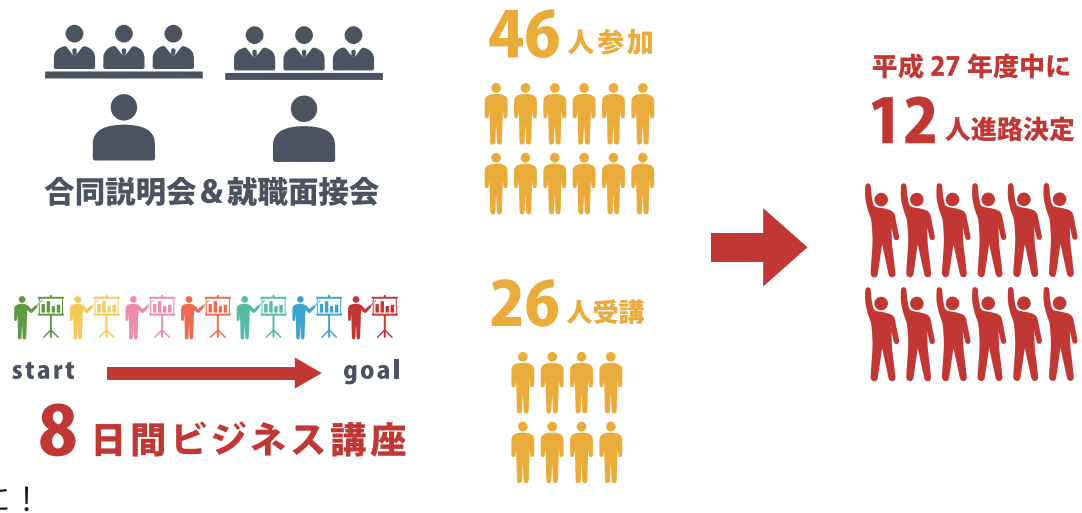


自分と向き合う自己分析講座



働く人の話を聞く講座も

平成27年度は、前年度より1日多い8日間の連続講座を企画。前期と後期に分けて2回開催し、自己分析から模擬面接、求人票の見方などを学んでもらいました。ビジネスマナー講座では、実際の電話機を使用し、録音した自分自身の声を確認するという演習を行い、ちょっとした緊張の瞬間を体験。応募書類の作成では、誰もが苦手とする志望動機、自己PRの作成に取り組みました。また、『働く人の話を聞こう』というプログラムでは、自動車整備士から社会保険労務士となった講師の体験談を聞くなど、全体を通して座学を少なくし、グループワークやロールプレイを多く取り入れました。また、平成27年度の特徴としては、ハローワーク伊丹との共催による『合同会社説明会＆就職面接会 in 伊丹』を実施したことです。一般の人を含め、46人の参加者を得て7人の内定者がありましたが、さまざまな事情により4人が辞退しています。いたみ就勝塾の一部の受講生も辞退しましたが、内定をもらったことで自信がつき、現在精力的に就職活動に取り組んでいます。就職ではなく大学に戻ることを決めた人もいますが、これも立派な進路選択です。就職活動中の人については、引き続きサポートを実施しています。



宝塚 NPO センター ヒ・ケ・ツ

本事業では、地元企業の協力を得て、『合同会社説明会＆就職面接会in伊丹』も実施しています。一日で複数社の面接を受けられる、採用担当者から直接話を聴くことができる、というメリットがあります。緊張でドキドキでしたが、みんな頑張りました。残念ながら内定につながらなかった人も、宝塚地域若者サポートステーションにつながり、引き続き就職活動しています。



その後

セミナー、職場体験、面接会などを経て就労に結びついた人は、合計で12人となりました。正規雇用や非正規雇用、就職活動中の人など、それぞれが新たなスタートを切っています。

『働きたい』と『働き続ける』のサポートを



働くイメージを掴む事務作業体験



本番に向けた面接対策講座



コミュニケーション講座で苦手を克服

平成27年度の地域若者サポートステーション事業は、目標が『進路決定から就職決定』へと大きく変わり、より厳しい目標設定となりました。来所のべ1,837人、相談件数1,876件、就職者数は目標110人に対し126人となり、開所以来ずっと目標を達成し続けています。

高い目標を達成するため、平成27年度はこれまで以上に関連機関との連携を意識して取り組みました。行政やハローワークによる広報協力、地域自治会などのイベントへのボランティア参加や就労体験・就農体験など、様々な形で多くの方にご協力いただきました。新しい取り組みとして、就職後の職場定着及びより良い雇用条件へのステップアップをサポートする『ステップアップ事業』をスタートしました。就職することはゴールではなく、スタートです。スタートしてから、悩み立ち止まることも少なくはありません。その悩みを相談する場があるということは大きな支えになります。ステップアップ事業で『働きたい』だけではなく『働き続ける』も応援し、今後も頑張っていきたいと思えます。



**自信をつけて
次のステップへ**

ここに！

宝塚 NPO センター
ヒ・ケ・ツ

宝塚市立勤労市民センターで職場体験を行なっています。就業経験が少ない利用者にインターンとして、事務仕事や窓口での対応、清掃まで多岐にわたる体験してもらいます。講座とは違った、現場ならではのアドバイスを受けて、本番さながらの経験を積んでいます。



その後

個別相談で自分自身のことを整理し、講座でスキルアップ、またインターンの経験を活かし自信をつけるなど、さまざまなサポートを経て、多くの利用者が次のステップへと進んでいます。

仕事を通じた社会参加づくり

就労準備支援事業所

はたらく応援センター

はたらく・・・
一人ひとりの事情に合わせた就労を！

相対的貧困者が 6 人に 1 人

平成27年4月から生活困窮者自立支援法が施行され、各自治体で自立支援に取り組んでいます。いま、日本では所得が平均的な水準の半分以上の相対的貧困と呼ばれる層が16%（6人に1人）に達し、先進30ヶ国中4番目に高い割合です。特に、現役世代の単身女性は、3人に1人が相対的貧困になっていると言われています。また、今日の貧困は、昔と違って支え合いやがんばりにつながらず、逆に孤立やあきらめを生み、20～59歳までの未婚の無職者で、家族以外とのつながりがほとんどない人々が162万人にのぼっています。急に病気になり働けない、家族の介護のために会社を辞めたが、介護疲れなどさまざまな理由でストレスを抱えてしまっている。このようなことは誰にでも起こりうることです。そういったさまざまな困りごとに対応するため、市の相談窓口では、相談者一人ひとりの支援計画を作成し、サポートをしています。



『はたらく応援センター』を開設



基礎から学ぶパソコン講座



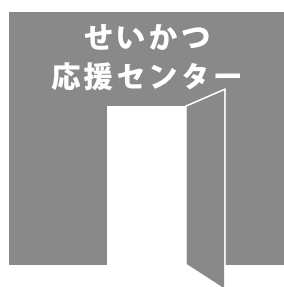
一人ひとりの事情に合わせて相談



保護者に向けたセミナー

本事業は、宝塚市だけでなく各市においても平成27年度からスタートしています。さまざまな困りごとに対応する窓口として、宝塚市役所内に『せいかつ応援センター』があります。その中で、就労したい人や直ちに就労が困難な人に対し、一定の準備期間を経て就労機会の提供を行う窓口として、市の委託を受け、当センター内に『はたらく応援センター』を開設しました。本制度における就労支援は、福祉と雇用が一つとなっていることが特徴です。福祉的なサポートを受けながら就労を実現できた人も多くいます。27年度の就労決定者数は54人、まだ就労にいたっていない人は引き続きサポートを実施しています。今後さらに多くの方が就労できるよう、平成28年度は就労準備支援メニューの充実を図る予定です。将来的には中間的就労の場も必要になると思いますが、そのためにも地域の福祉関連機関・NPO団体や事業者の協力や、市役所内においてもさまざまな窓口での対応が求められ、縦割り行政を超えて地域全体で取り組んでいく必要があります。今はまだ手探りの状態ではありますが、関係者の協力を得ながら一つひとつ実施していきます。

就労をサポート



就労決定
54人



ここに！

宝塚 NPO センター
ヒ・ケ・ツ

本事業を充実させることは、地域の活性化にもつながるため、地域全体で取り組むことが求められています。農園作業や勤労市民センターでの職場体験・ボランティア体験は、地域のNPO、ボランティアさんと職員との協働作業です。今後は企業との連携も進めていく予定です。



仕事を通じた社会参加づくり



地元でかがやく

一歩踏み出す勇気を支える

平成23年度内閣府調査によると、「住みたい地域で希望する仕事につけることが重要」と考える人は63.8%。またマイナビの平成25年度地元就職に関する調査によると、「兵庫県に進学した学生で地元で就職したい」と回答する学生は62.7%と、地域での就職を考える若者が多くいることが分かります。「地元で開催される合同就職説明・面接会に興味がある」との回答も50%を超えています。

アンケート通り、地元の就職面接会へ期待を胸に参加する若者は少なくありません。一方で、会場に足を運んだにもかかわらず、さまざまな理由から面接に一歩踏み出せない若者もいます。

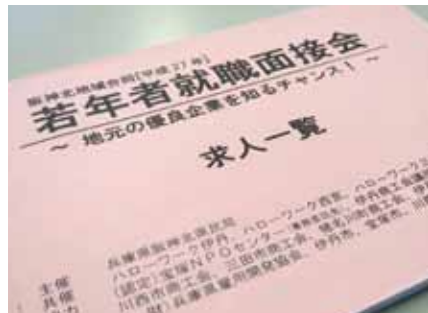
地元企業の魅力を分かりやすく伝えと共、面接会場で不安を感じる若者の一歩踏み出す勇気を支える。そのような支援が求められています。



全力でニーズに応える



面接会のチラシ



当日配布の冊子

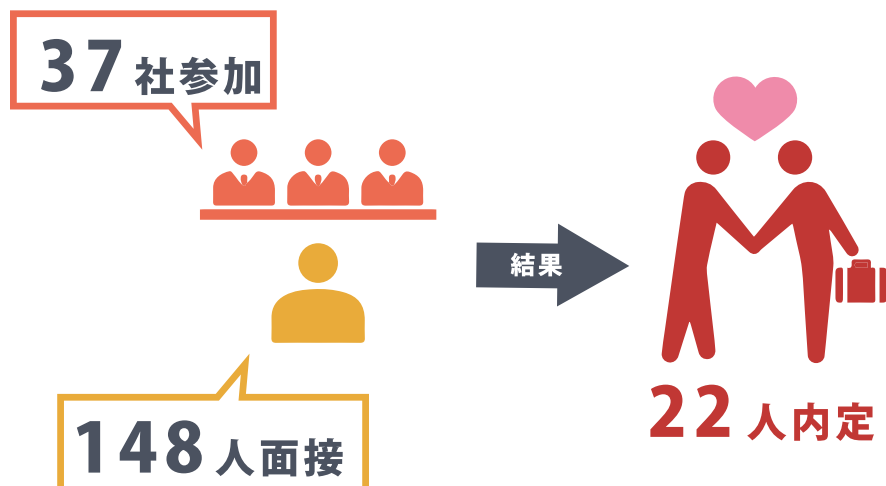


ただ今面接中

兵庫県阪神北地域の4市1町（伊丹市・宝塚市・川西市・三田市・猪名川町）の商工会・商工会議所会員の37社が出席する合同就職面接会に、113人の求職者が参加しました。宝塚NPOセンターは開催を支える事務局として参画。

面接会場で面接に踏み出せない求職者へは、相談ブースの宝塚地域若者サポートステーションやひょうご・しごと情報広場職員と共に、一人ひとりに声をかけ、興味のある業種・職種を聞き取りながらマッチングを行いました。その結果、面接総人数148人、内定者数22人となりました。アンケートには、参加した求職者から「親身になって手伝ってもらえた」「話を聞いてもらって、とてもありがたかった」との感想。また企業側からは「こんなに面接希望者が来ると思わなかった」「他企業との交流が持てたことも有意義だった」とのコメントをいただきました。

企業ニーズと求職者のニーズ、双方を知る宝塚NPOセンターならではの取り組みができました。



ここに！

宝塚 NPO センター
ヒ・ケ・ツ

なにより伊丹・西宮ハローワークや、各市商工会・商工会議所でご担当いただいた皆様のご協力が、今回成功に至ったヒケツです。企業や就労を支える方々の日頃の努力があればその、円滑な運営でした。



参加の場づくり



提供しているのは
『珈琲』と『思いやり』

人口の半数が 50 歳以上の時代にできること

QOL(＝生活の質)向上のため、今後のまちづくりは高齢者に「ただやさしい」だけではいけない、とWHO(世界保健機関)は『グローバル・エイジフレンドリーシティ・ガイド』で提言しています。また「高齢者という一つの枠組みでくるのではなく、いろいろな特徴をもつ個人であるということ。それを踏まえて、高齢者一人ひとりが自分で考え社会と関われる仕組みを作るべき」としています。

日本でも、そして宝塚市でも5年後には50歳以上が人口の半数を占める時代。高齢者は守られるべき立場という意識から、それぞれが地域の担い手であるという意識変革が必要です。「家でテレビを見る以外に、楽しみながら社会とつながれる」といった自然に社会参加ができる、市民としての社会貢献につながる仕組みづくりの実践が求められています。



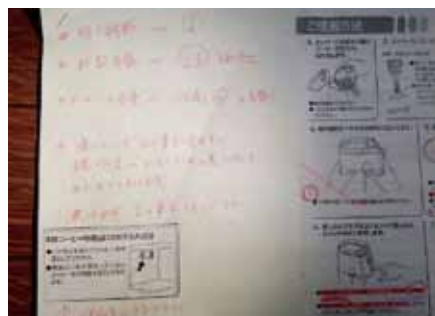
5 年後の宝塚 は
50 歳以上が主役



みんなで守る『飲むだけの社会貢献』



スポーツセンターに2号店を出店



コツが書かれた手書きマニュアル



手作りのお知らせボード

100色珈琲の100色とは、コーヒーを飲みにくる人もサービスを提供する人も多様である、ということをも10人10色とかけて表しました。宝塚NPOセンターに集う人たちは年齢を問わず、社会に関わりたと思っています。そのきっかけの一つがボランティア・カフェという100色珈琲。17人のボランティアスタッフと寄付で運営するコーヒー屋台は平成27年度4,900人が利用しました。1号店となる勤労市民センター店につづき、平成27年度からは宝塚市立スポーツセンターでも週2回(水・土)開店し、市民のほっと一息つける場所として喜ばれています。

またボランティアはシニアだけでなく、就労や接客の体験をしてみたい若者も参加しています。新しく届いたコーヒーマシンに悪戦苦闘するシニアスタッフのために、若いスタッフが手書きのマニュアルを作成したり、接客に悩む若者をシニアスタッフが励ましたりとそれぞれの持ち味を活かしながら自主・自律的な運営を行っています。



ここに！

宝塚 NPO センター
ヒ・ケ・ツ

職員とボランティアスタッフの関わり方が隠れたヒケツ。職員は豆や衛生・品質管理を行うだけで、ローテーションや接客はボランティアスタッフ自らが行っています。今では馴染みのお客さんも増え、「この曜日じゃないとダメ!」という方もいらっしやいます。





地域ネットワーク (自治会・夏祭り・栄町会館)



夏祭りの司会を担当



地藏盆に行われる夏祭り



栄町会館の業務をお手伝い

祭りの提灯を持っているNPO法人は全国でも珍しい。

『ソリオ宝塚自治会』の事務局を担って9年になります。会費の管理や書類作成など、辛いところに手が届く支援が持ち味です。

また、平成27年から地域の4自治会で運営している『栄町会館』の経理と受付業務をお手伝いさせていただいています。総会の時期には、複数の自治会から総会冊子の印刷業務の依頼があり、宝塚地域若者サポートステーション事業と連携し良い仕事体験の場となっています。夏祭りの事務局を担っていることも含め、地縁組織の方々に地域の仲間として認めていただいていることは、私たちの誇りとなっています。

その他

第5次宝塚市総合計画策定業務委託



『総合計画』とは、これからの宝塚市をもっと暮らしやすく、住み続けたい、訪れてみたいと思えるまちにするための行政の最上位計画です。平成27年度は市長への答申、市議会による可決を経て、計画が策定されるまで、事務局を市と協働で行いました。平成27年3月から始まった審議会では、宝塚市民や市で活動する公共的団体関係者などを含む40人の委員が4つの部会に分かれ、のべ32回に渡る会議を行いました。『総合計画』を実のあるものにすべく、各委員からの様々な意見に対し議論が尽くされ、計画に反映されています。計画では、市民の力を活かす『協働』も重点目標として挙げられており、中間支援団体としての役割の重さを感じています。

宝塚市消費者教育推進計画策定業務委託



モノからサービスへの消費行動の変化、パソコンや携帯電話などの急速な普及などにより、私たちの周りにはさまざまな情報があふれています。今、私たちに求められているのは、選択する確かな目と行動力です。そのためには、悪徳商法に気をつけるだけでなく、環境や食の安全など生活全般について、年齢や生活の場に応じた消費者教育が必要です。今回の業務では、宝塚NPOセンターが地域・市民活動を行ってきた経験を活かし、素案作成からデザイン提案、編集作業まで市と協働で事務局を担いました。今後も、誰もが地域で安心して暮らせるよう、その一助になりたいと思います。

宝塚NPOセンター な・ら・で・は

8事例

1



夏祭り反省会

毎年、夏祭りの打ち上げの会場は宝塚NPOセンター。祭りが終わると、三々五々と皆さんが宝塚NPOセンターに集合。皆さんとは、婦人会や自治会、子ども会やビル管理会社、事業者など『協働』という言葉を意識せず、お互いに『あうんの呼吸』で夏祭りの成功のために動いた仲間です。年に1回、「お疲れ様」と労いながら、ビール片手にお互いのことを語り笑う。この打ち上げは、その後の364日のつながりのスタートラインになっています。



2



勤労市民センター ウォータークーラー

末広中央公園に隣接し、子どもたちの笑い声が絶えない勤労市民センター。多くの人のために安全で安心な水飲み場が確保されているだけでなく、あえてカップを用意して、飲む人が「お水飲んでいいですか?」と聞き、職員が明るく「どうぞ!」と応える。利用者と職員の自然な関係が生まれるしくみづくりは、勤労市民センターならではです。



3



職員からの ありがとうございました の声掛け

当センターには、お仕事を探しに相談者が毎日来られます。就職活動では書類選考・面接での失敗などで気持ちが落ちこむこともあります。事務所に来られることで少しでも気分が明るく、楽になれるように願っています。みんなでサポートしたい、そんな願いを込めて、事務所の出入りではスタッフ全員が相談者に「こんにちは」「ありがとうございました」と温かいあいさつで送り迎えています。また、ここでのあいさつは、それに応える相談者にとって、会社の採用面接の練習にもなっています。



4



宝塚市文化財団 とのコラボ

宝塚市文化財団が主催するイベントに、就労を目指す若者がボランティアとして参加しています。また、チラシ挟み込みなどのアルバイトを依頼していただくなど、多くの就労の機会や体験の場を提供してくれています。ボランティアの場や就労体験の場に参加することによって、仕事の勘を取り戻し、楽しさを感じることで次のステップへと進むことができます。これも宝塚NPOセンターの取り組みへの理解や、つながりがあってこそ実現できることの1つです。



5



ツカベジ農園

当センターの就労支援のメニューの一つとして、ひょうご宝塚園芸福祉協会の畑で、協会スタッフのご指導のもと、週1回行う野菜作りの活動があります。就職活動に疲れたので気分転換したい、農作業のプチ体験をしたい、一緒に作業する人とコミュニケーションを取る練習をしたいという方などにお薦めしています。土にふれ、野菜の成長を見守ることで癒され、「久しぶりに屋外で体を動かして気持ちよかった」という声をよく聞きます。みんなで育てた野菜などを収穫する瞬間は、特別なものになっています。



6



リアルタイム求人

宝塚周辺で店頭貼ってある求人を職員が撮影し、求人情報にお店の外観なども合わせ『リアルタイム求人』として事務所の一角に掲載しています。このように店頭貼られている求人の中には、ハローワークやインターネットには載っていない求人情報も多くあります。宝塚NPOセンターには、就労や起業についての相談、コピー機の利用などたくさんの方が来られます。その方々の目に留まればと思い、3年ほど前からリアルタイム求人が始まりました。



7

勤労市民センター
つばめ文庫

本一冊から始まる社会貢献、つばめ文庫。宝塚市立勤労市民センター1階ロビーに設置された、誰もが利用できる図書文庫です。家にある読まなくなった本を持ち寄り、ほかの人が持ってきた本を持ち帰ることが出来ます。1冊の本が次の人に渡っていくことから『つばめ文庫』と名付けました。みんなが気軽に本をシェアできるまちづくり、会ったことのない誰かともつながれる仕組みづくり。これも宝塚NPOセンターならではの活動です。



8



コピーサービス

宝塚NPOセンターでは、コピーサービスを利用するために、カルチャー教室や自治会の方など、いろいろな方が来られます。コピー作業は利用者と職員が共に行います。たくさんの方の作業をお願いされるときには、宝塚地域若者サポートステーションの利用者の若者にも手伝ってもらい、『事務作業体験の場』にもなっています。「宝塚NPOセンターって何をされているんですか」と尋ねられることもあり、日ごろの活動を知ってもらう機会にもなっています。私たちがこのようなサービスをしているのは、地域の皆様との関わりを大切にしたいという思いがあるからです。



まとめ

中間支援組織ってなんだろう。

市民と行政をつなぐ通訳、社会資源と市民をつなぐなどのインターメディアリー機能。インキュベーターという保育器の機能。

そして、マネジメント・サポート・オーガナイズを略したMOS(マネジメント支援組織)の機能を果たしていると言われています。並べると何とも大層ですが、私たち宝塚NPOセンターでは、日々、普通にその機能が果たされています。自治会の印刷物のコピーサービスを中間就労の体験の場にし『現在の若者の課題』と『担い手が少ない地域課題』をつなぎ、本を通じて人をつなぐ。就労の相談に来た方への声掛けや勤労市民センターに水を飲みに来る子どもへの声掛けで人に対するインキュベーターになり、夏祭りの反省会では、地域をつなぎ地域のインキュベーターとしての役割を果たしています。

何とも不思議なのですが、宝塚NPOセンターの日常には普通に中間支援マインドが流れています。それが宝塚NPOセンターな・ら・で・は。

平成 27 年度特定非営利活動に係る事業会計

貸 借 対 照 表 簡易版

平成 28 年 3 月 31 日現在

(単位：円)

借 方		決算額		貸 方		決算額	
資 産 の 部	I. 流動資産			負 債 ・ 正 味 財 産 の 部	I. 流動負債		
	現金・預金				預り金	1,557,753	
	現金	222,163					
	小口現金	30,000					
	郵便貯金	982,081			会費前受金	84,000	
	普通預金	15,326,596			未払金	7,521,499	
	(現金・貯金合計)		16,560,840		未払法人税等	82,000	
	その他の資産				未払消費税等	2,056,300	
	未収入金	15,232,912					
	立替金	153,283			負債合計		11,301,552
	前払費用	233,381			正味財産の部		
	(小 計)		15,619,576		前期繰越正味財産額	20,385,412	
					当期正味財産増加額	2,979,892	
	(流動資産合計)		32,180,416		正味財産合計	23,365,304	23,365,304
	II. 固定資産						
	敷金	1,500,000					
	差入保証金	80,000					
	電話加入権	76,440	1,656,440				
III. 繰延資産	長期前払費用	830,000	830,000				
	資産合計		34,666,856				
				負債及び正味財産合計			34,666,856

平成 27 年度特定非営利活動に係る事業会計

活 動 計 算 書 簡易版

平成 27 年 4 月 1 日～平成 28 年 3 月 31 日まで

(単位：円)

科 目	当初予算	決算額
I 経常収益		
1. 受取会費	1,500,000	1,070,000
2. 受取寄付金	1,000,000	2,460,488
3. 受取助成金等	7,900,000	8,965,000
4. 事業収益	21,808,000	23,368,630
5. 受託収益	68,593,416	70,165,696
6. その他収益	1,002,000	1,302,579
経常収益計	101,803,416	107,332,393
II 経常費用		
1. 事業費		
(1) 人件費	58,681,895	59,255,208
(2) その他経費	33,118,084	34,548,821
事業費計	91,799,979	93,804,029
2. 管理費		
(1) 人件費	1,155,349	427,236
(2) その他経費	8,260,000	10,039,236
管理費計	9,415,349	10,466,472
経常費用計	101,215,328	104,270,501
税引前当期正味財産増減額	588,088	3,061,892
法人税等	82,000	82,000
当期正味財産増減額	506,088	2,979,892
前期繰越正味財産額	20,385,412	20,385,412
当期正味財産合計	20,891,500	23,365,304

平成 28 年度に向けて

平成 28 年度は、ここ数年右肩上がりに伸びていった事業予算が、踊り場でいったん立ち止まる状態の一年です。具体的には、昨年度に比較し 1 千 500 万円ほど、予算が縮小。この一年にどれだけ深く考え学び行動に移すことができるかが、宝塚 NPO センターの今後を決めると言っても過言ではないでしょう。とは言うものの、事業予算に反比例し当センターに関わる人は増加しています。

地域のサードプレイスとして平成 27 年 10 月に運営を始めたきずなの家『KaRuTa』には、平成 28 年 3 月末までに 1,651 人の方が訪れています。事務所以外に『場』を持つ経験が初めての私たちは、『場』が生み出す『つながり』『語らい』が人をエンパワメントすることを再認識しました。そして、私たちが何を支えるべく動いているのかを考える機会をも与えてくれました。

宝塚 NPO センターは、中間支援です。まちを形づくる個人を支援することで、自律した個の集合体である組織を支えます。自律した個は柔軟な力強い地域づくりの礎になると考えているからです。コンサルとは異なる地域に根ざした中間支援組織として、企業と働く人をつなぐ、NPO を地域につなぐ、地縁団体と個人をつなぐ、市民活動が活発になる土壌を耕し、協働の土壌を掘り起こす。そして、降りそそぐ雨のごとくじつくりと大地に染みるような仕事をする一年でありたいと思います。

平成 28 年度特定非営利活動に係る事業会計

活 動 予 算 書

平成 28 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日まで

(単位：円)

科 目	当初予算
I 経常収益	
1. 受取会費	1,500,000
2. 受取寄付金	1,415,000
3. 受取助成金等	10,800,000
4. 事業収益	21,074,000
5. 受託収益	51,014,376
6. その他収益	502,000
経常収益計	86,305,376
II 経常費用	
1. 事業費	
(1) 人件費	53,153,142
(2) その他経費	23,250,759
事業費計	76,403,901
2. 管理費	
(1) 人件費	626,000
(2) その他経費	8,947,527
管理費計	9,573,527
経常費用計	85,977,428
税引前当期正味財産増減額	327,948
法人税等	82,000
当期正味財産増減額	245,948
前期繰越正味財産額	23,365,304
当期正味財産合計	23,611,252

平成 28 年度特定非営利活動に係る事業計画

平成 28 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日

協働の場づくり

市民同士の協働、行政と市民の協働、中間支援と市民・行政の協働という 3 つのつながりの中から、地域のあちこちに対話を生み、お互いの理解を深めながら共に地域を考える参加型の社会をつくります。

	事業内容	実施目標
市民活動促進支援事業 (対象：宝塚市民)	特定非営利活動法人の起業・運営相談支援業務 市民活動団体等のコミュニティビジネス育成等支援業務	300 回 200 回
ひょうごアドプト推進業務 (対象：阪神北県民局管内の市民)	アドプト団体活動支援	39 団体
エイジフレンドリーシティ 行動計画策定業務 (対象：宝塚市民)	エイジフレンドリーシティ行動計画策定事務局支援	通年
きずなの家事業 (対象：宝塚市民)	カフェ事業 市民アーティスト応援事業 貸し部屋事業 障がい者授産品委託 販売事業 市民活動広報支援事業 市民団体イベント支援事業 市民ボランティア参画促進事業 カレンダー交換会	通年 通年 通年 通年 通年 通年 通年 通年

人と組織づくり

持続可能な組織運営を相談者と一緒に考える姿勢を大切に、コミュニティビジネスや NPO 活動を通じて、誰もが主役として参加できる社会をつくります。また、仕事というツールを用い、誰もが社会とつながることを応援します。

生きがいしごと サポートセンター事業 (対象：兵庫県民)	NPO・CB の設立支援 雇用創出 情報収集発信 起業相談業務 シニア起業 シニア雇用創出 コミュニティビジネスゼミナール 実務講習講座 シニア向け講座 CB 啓発フォーラム 専門家派遣	24 法人設立 280 人 随時 80 人 8 団体 40 人 8 回 11 回 8 回 2 回 5 団体
------------------------------------	---	---

地域づくり

参加型の施設管理運営を通じて、新しいコミュニティをかたちづくっていきます。本を通した市民同士の交流の場も設置します。

宝塚市立勤労市民センター 指定管理事業 (対象：宝塚市民)	宝塚市立勤労市民センター管理 宝塚市立未広駐車場管理 自主事業	通年 通年 通年
-------------------------------------	---------------------------------------	----------------

仕事を通じた社会参加づくり

働くことで社会に参加することを支援し、就職成立者を増やします。また、事業者はもとより多くの市民に現在の雇用状況を伝えることで、地域の理解を深めます。

	事業内容	実施目標
宝塚市職場体験付 若者就労支援事業 (対象：就労に課題を抱える 宝塚市内の若者)	就労支援セミナー 生活訓練プログラム 職場体験実習	13 講座 5 講座 約 2 週間 / 1 人
伊丹市若年者就労サポート事業 (対象：就労に課題を抱える 伊丹市内の若者)	就労支援セミナー IT (PC) 講座 職場体験実習 合同就職面接会	24 講座 8 講座 約 3 ～ 5 日 / 1 人 40 人
地域若者 サポートステーション事業 (対象：地域を問わず就労に 課題を抱える若者)	キャリア相談 キャリアセミナー 職場定着ステップアップ支援	新規登録者 240 人 就職者 140 人 就職者の定着率 70%
生活困窮者就労支援事業 (対象：宝塚市民)	就労支援	通年

参加の場づくり

年齢や立場に拘わらず誰もが参加できる場づくりや仕組みづくりを、100 色珈琲カフェを通じて実現します。

100色珈琲事業 (対象：一般市民)	カフェを通じた参加の場づくり	通年
-----------------------	----------------	----

市民ネットワークづくり

中間支援 NPO として、それぞれのセクターを結びつけるネットワークの推進に力を入れ、安全で安心な社会をつくっていきます。

情報提供・講演 (対象：一般市民、市民活動団体)		通年
東日本大震災支援 (対象：関西への避難者)	就労支援 生活相談	通年 通年
熊本地震支援 (対象：被災者)	募金活動	通年
ネットワーク事業 (対象：一般市民、市民活動団体)	自治会事務局 ソリオふれあい夏祭り事務局 地域施設管理事務局	通年 通年 通年

支えてくださった皆さん

法人会員 3団体

医療法人 回生会 宝塚病院
ソリオ宝塚都市開発株式会社
生活協同組合コープこうべ

団体会員 62団体

あ・ぷり
アミーゴ
いきいきシニアゼミナール
伊丹市土に親しむ会
エスリード宝塚自治会
オフィス・ナウ
川西市手をつなぐ育成会
関西アロマセラピスト・フォーラム
キッピーフレンズ
希望の家
きらり
きらら
Creative Debate for GRASS ROOTS
高齢者問題を考え行動する会
国際交流団体未来
コスモス
里山未来ラビット
シェアフィールド
支援の会ひまわり
市民活動フォーラムみのお
若年認知症支援連絡会 ひよこの会
晋栄福祉会 宝塚ちどり
水道施設整備技術協議会
スマイルウェイ
そら
ソリオ宝塚自治会
宝塚エルバイレFC
宝塚高次脳機能障害者共生の会
宝塚青年会議所
宝塚NISIITANI

宝塚市花のみち自治会
宝塚まち遊び委員会
宅老所 光明の家
宅老所 ろまん
丹波里山くらぶ
つどい場さくらちゃん
とことこ
日中会計税務交流機構
日本災害救援ボランティアネットワーク
日本心理教育ラボ
ネパール・ヨードを支える会
ハートライフ福祉協会
ハッピーライフ福祉会
Happy Happy
日高共同作業所
陽だまり
人と人とを結ぶ福祉の会ハロー宝塚
ヒューマンサポート関西
ひょうご宝塚園芸福祉協会
兵庫空き家相談センター
ボア・ヴィーブ
宝豊連
ほっと宝塚子育てネットワーク
緑と花と輝きのまちづくり
武庫川がっこう
めふのお家
友愛こぶし
よつば法律事務所
れいんぼう
匿名希望 3団体

個人正会員 39名

相田 英俊
相田 こと子
市村 浩一郎
江守 典子
遠座 俊明
橘田 てつ子
木下 道則
清瀬 勲
倉橋 滋樹
佐藤 健二
塩谷 惣太郎
清水 幹子
菅原 美代子
鶴丸 梯二
田 恭子
中 政芳
中山 光子
中川 知子
名取 千里
野尻 俊明
林 宏昭
原 啓
福岡 則博
福島 達夫
藤崎 麻里
藤田 綾子
牧里 毎治
三木 さくら
三原 伸也
森田 義
山本 敬子
山口 耕平
山田 忠生
横山 宗助
吉野 茂子
和智 敏雄
匿名希望 3名

(敬称略)

賛助会員 116名

阿部 一郎
天羽 望
荒木 恵子
飯室 裕文
生駒 由香里
石堂 恵教
石原 朱実
石橋 さなえ
石渡 裕子
和泉 昌三
伊藤 壽子
井上 芳子
上坂 和子
上村 敏弘
内田 才子
大上 清
大橋 良子
大谷 友比古
大西 和昭
太田 恵子
岡田 泰子
岡田 俊明
奥村 和恵
越智 清光
金井塚 美根
金谷 信子
金岡 重子
亀川 甲
川口 章子
川久保 雄介
河本 美代子
木佐一 豊人
北田 浩久
北山 辰夫
木下 静美
木村 佳友
久世 直子
工藤 圭子
國下 透
久保 明子
栗岡 和美
車田 清美
黒木 雅子
香村 道夫
小副川 久代
小林 則昭
小林 和子
小林 浩昭
小林 光里
佐伯 義信
阪口 春彦
澁谷 富子
正 優展
新福 泰雅
直田 春夫
須藤 栄一
高瀬 梓
高原 宏子
高松 泰子
高野 学
田中 誉人
多胡 葉子
立田 英雄
立川 文代
釣島 平三郎
出澤 淳一
中川 慶子
中村 豪
永井 弘行
西野 順三
西部 三重子
緋本 順子
福島 義直
藤田 昭
藤井 佳代子
藤田 浩
藤津 忍
古田 時子
前田 敦司
松永 星子
松藤 聖一
松浦 雅子
松岡 香江
森田 かつ子
三橋 あき子
三戸 俊徳
宮野 達子
宮脇 瑞穂
宮本 真由美
宮本 由紀代
村上 克己
望月 利恵子
粉井 芳子
森田 隆作
森本 樹
森脇 やすと
谷川原 宇子
安田 和弘
保元 温
山口 一史
山本 進
山添 令子
山口 尚美
山本 麗子
横山 晴美
匿名希望 11名

(敬称略)

寄付者 28名

小林 和子
菅原 美代子
山口 耕平
橘田 てつ子
森本 樹
三戸 俊徳
鶴丸 梯二
濱本 佳子
山口 一史
(株)ドラゴンソリューション
宝塚 NISITANI
金井塚 美根
中山 修
中山 光子
妹尾 勇太郎
山本 敏晴
妻鹿 キミ子
牧里 毎治
あとリエ・宝塚
緋本 順子
山崎 絹代
山上 美保
岡本 光子
三原 伸也
藤田 綾子
福岡 則博
匿名希望 2名

(敬称略)

平成 28 年 3 月末 18 年間の寄付金総額は 30,970,180 円

平成 27 年度の寄付金額は 28 件（24 個人、4 団体・企業）で 2,460,488 円の寄付をいただきました

ボランティア



平成 27 年度のボランティア時間は 3,521 時間となりました。

このボランティア時間は常勤職員の 1 年の労働時間に換算すると約 2 人分となり、無償役務を換算すると 360 万円の寄付に相当します。

広い視野からのご意見や一緒に作業をする際の何気ない会話は、私たちに多くの気づきを与えてくれます。また、平成 27 年 10 月から始まった『きずなの家 KaRuTa』にはすでに 14 人のボランティアの方々が参加し、平日の運営は、ボランティアの皆さんで賄われているのが現状です。私たちにとって、ボランティアの皆さんは欠かすことのできない活動のパートナーです。

今後も多くのボランティアの皆さんと共に、人が行き交う市民活動の交差点として活気あふれる宝塚 NPO センターを目指したいと考えます。

職員

石渡 裕子
石堂 弥華子
市川 隆司
上村 敏弘
内田 潤
馬越 康弘
塩谷 素子
太田 恵子
大西 和昭
片山 弘恵
橘田 てつ子
木佐一 豊人
工藤 圭子
小林 千寛
佐藤 紫乃
塩谷 惣太郎
篠原 久美
高瀬 梓
高橋 真由美
出澤 淳一
中山 光子
緋本 順子
松岡 香江
万場 イツエ
三井 優子
三原 伸也
山口 耕平
山脇 郁廣
山下 智子
横山 宗助
吉野 茂子
若山 晴司

(平成28年3月末現在 50音順)

役員

理事長	牧里 每治	関西学院大学 人間福祉学部 社会起業学科 教授
副理事長	江守 典子	宝塚市社会教育委員の会議 議長
副理事長	遠座 俊明	大阪ガス株式会社 エネルギー・文化研究所
理事	名取 千里	株式会社ティーオーエー 代表取締役
理事	鶴丸 悌二	高齢者問題を考え行動する会 代表
理事	野尻 俊明	保護司
理事	藤田 綾子	大阪大学名誉教授
理事	中山 光子	認定 NPO 法人 宝塚 NPO センター 事務局長
理事	橘田 てつ子	認定 NPO 法人 宝塚 NPO センター
監事	福間 則博	弁護士
監事	森田 義	公認会計士、税理士

(平成 28 年 3 月末現在)



認定 NPO 法人 宝塚 NPO センター

宝塚市栄町 2-1-1 ソリオ 1-3F

TEL/0797-85-7766

FAX/0797-85-7799

MAIL/ zukanpo@hnpo.net

URL/ <http://hnpo.net>